

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-000108

(43)Date of publication of application : 05.01.1990

---

(51)Int.Cl. A61K 31/557  
// C07C405/00

---

(21)Application number : 63-230469

(71)Applicant : UENO SEIYAKU OYO  
KENKYUSHO:KK

(22)Date of filing : 14.09.1988

(72)Inventor : UENO RYUZO  
UENO TAKASHI  
ODA TOMIO

---

(30)Priority

Priority number : 36223589 Priority date : 18.09.1987 Priority country : JP  
36233403 29.12.1987 JP

---

## (54) INTRAOCULAR TENSION LOWERING AGENT

### (57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an intraocular tension lowering agent effective for treating glaucoma free from side effects comprising a 13,14-dihydro-15-keto-prostaglandin as an active ingredient.

CONSTITUTION: An intraocular tension lowering agent comprising a 13,14-dihydro-15-keto-prostaglandin, especially one containing an alkyl ester (especially 1-4C alkyl ester) as the carboxyl group as the  $\alpha$ -chain end or one of 20-alkyl derivative prepared by replacing (extension of  $\alpha$ -chain) carbon at the-20 position with an alkyl group (especially 1-4C alkyl) as an active ingredient. The compound develops strongly lowering action on intraocular tension without exhibiting transient rise in intraocular tension shown by prostaglandins, has no side effects such as strong afflux of conjunctiva and iris, closing of eye, tearing, etc., and characteristic actions of prostaglandins on intestine, air tubes and bronchial tubes are not also observed.

---

### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of  
rejection]

BEST AVAILABLE COPY

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 平2-108

⑫ Int. Cl. 5

A 61 K 31/557  
// C 07 C 405/00

識別記号 AB L  
501 J

厅内整理番号 7375-4C  
7419-4H

⑬ 公開 平成2年(1990)1月5日

審査請求 未請求 試験項の数 11 (全22頁)

⑭ 発明の名称 眼圧降下剤

⑮ 特許庁 昭63-230469

⑯ 出願 昭63(1988)9月14日

優先権主張 ⑰ 昭62(1987)9月18日 ⑯ 日本 (JP) ⑮ 特願 昭62-235890  
⑰ 昭62(1987)12月29日 ⑯ 日本 (JP) ⑮ 特願 昭62-334037

⑰ 発明者 上野 隆三 兵庫県西宮市南郷町10-27

⑰ 発明者 上野 隆司 兵庫県西宮市美作町7-29

⑰ 発明者 小田 宮雄 兵庫県伊丹市緑ヶ丘1-116-1-202

⑰ 出願人 株式会社上野製薬応用 大阪府大阪市東区高麗橋2丁目31番地  
研究所

⑰ 代理人 弁理士 青山 葵 外2名

明細書

1. 発明の名稱

眼圧降下剤

2. 特許請求の範囲

1. 13,14-ジヒドロ-15-ケト-プロ  
スタグラニン類を有効成分として含有すること  
を特徴とする眼圧降下剤。

2. 13,14-ジヒドロ-15-ケト-プロ  
スタグラニン類のうち20位の炭素にアルキル  
基がアルキルエスチル体である第1項記載の眼圧  
降下剤。

3. 13,14-ジヒドロ-15-ケト-プロ  
スタグラニン類のうち20位の炭素にアルキル  
基が変換した20-アルキル体である第1項記載  
の眼圧降下剤。

4. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンA類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

5. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンB類である第1項記載

の眼圧降下剤。

6. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンC類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

7. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンD類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

8. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンE類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

9. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンF類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

10. 有効成分が13,14-ジヒドロ-15-  
ケト-プロスタグラニンJ類である第1項記載  
の眼圧降下剤。

11. 13,14-ジヒドロ-15-ケト-プロ  
スタグラニン類を含有する眼内障害薬。

3. 発明の詳細な説明

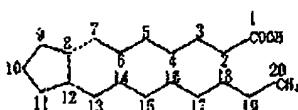
医薬上の利用分野

特開平2-108(2)

本発明は13,14-ジセドロ-15-ケト-プロスタグランジン類を含む鎮圧降下剤に関する。

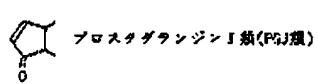
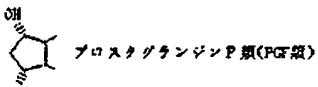
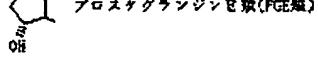
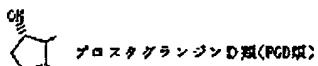
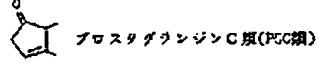
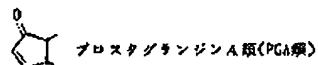
【従来技術および課題】

プロスタグランジン類(以下、PG類と記す)はヒトおよび動物の組織や臓器に含まれる多様な生理作用を示す一群の脂肪酸に与えられた名称である。PG類は下式で示されるプロスタン類

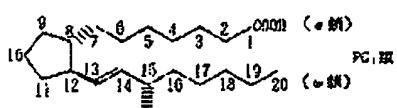


を基本骨格とするが、合成品の中には上記骨格に側鎖を加えたものも含まれる。

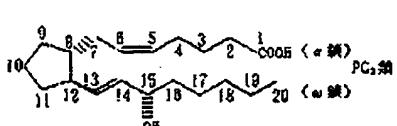
PG類はその五員環構造により、



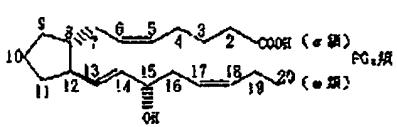
等に分類される。また、5-6位の炭素結合が单結合であるPG<sub>1</sub>類:



と5-6位の炭素が二重結合であるPG<sub>2</sub>類:



さらに5-6位の炭素および7-18位の炭素が各々二重結合であるPG<sub>3</sub>類:



とに分類される。

PG類は種々の薬理学的、生理学的作用を有しており、例えば血管収縮、起炎作用、血小板凝集

作用、子宮筋収縮作用、腸管収縮作用が挙げられるが、PG類は同時に種々の作用を有するがゆえに医薬としての使用には問題がある。即ち、一つの作用を薬効としてPG類を投与した場合、同時に他の作用も併せもつために、これら他の作用が副作用的に発現することが多い。そこでこれまでのPG類の医薬としての検討は、いかに主効果として期待される作用の選択性を高めるかに主眼がおかれてきた。しかしながら、これらの検討は未だ充分ではない。

また、PG類の中で例えばPGA類、PGD類、PGE類、PGF類などには、鎮圧降下作用を有することが知られている。例えば、特開昭59-1418号公報にはPGF<sub>1</sub>αが高い鎮圧降下作用を有することおよび15-ケト-PGF<sub>1</sub>αがわずかではあるが同じく鎮圧降下作用を有することが記載され、また、特開昭63-66122号公報にはPGA、PGBおよびPGCが線虫類の虫成に有効であることが述べられている。しかしながら、これらのPG類をウサギ等に投与した場

### 特開平2-108(3)

合には、一過性の眼圧上昇を伴い、また眩暈、紅潮に強い充血が認められ、さらに皮誤、眼瞼、瞼瞼などの副作用が認められる。従って、PG類を眼内薬治療あるいは眼圧降下剤として使用することには問題がある。

一方、ヒトまたは動物の代謝物中には、13-14位の炭素が飽和し、15位の炭素がカルボニル基であるPG類の存在が確認されている。これら13,14-ジヒドロ-15-ケト-プロスタグランジン類(以下、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類)は、対応するPG類が体内において、酵素による代謝反応によって自然に代謝産生される物質として知られている。これら13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類はPG類が有する種々の生理活性をほとんど示さず、薬理学的、生理学的に不活性な代謝物として報告されてきた(アクア・フィジオロジカ・スカンジナビカ(Aqua Physiologica Scandinavica)第68卷、第509頁~、1968)。

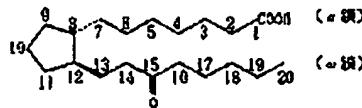
しかしながら、本発明者は上記代謝物をさらに

それらの誘導体の薬理活性を評価するうち、上記代謝物であっても、眼圧降下を示すこと、ならびにPG類が示す一過性の眼圧上昇を示さないことを見出した。さらに13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類のカルボン酸をエステル化したもの、あるいはカルボン酸型、塩酸、エスチル体のいずれにおいても2-3位の炭素が二重結合、あるいは5-6位の炭素が三重結合を有する化合物、3位、6位、10位、17位、19位および/または20位に置換基を有する化合物、9位および/または11位の炭素に水酸基を有する化合物にあっては、水酸基の代わりに低級アルキル基あるいはヒドロキシアルキル基を有する化合物などにすることによって、眼圧降下作用の発現性を增强すること、ならびにこれら13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類においても、PG類が示す一過性の眼圧上昇を示すことなく、眼圧降下作用が発現すること、さらに充血等の副作用も全く認められないが、あるいは極めて緩和されることを見出した。また、これら13,14-ジヒドロ-

15-ケト-PG類は、腸管や気管、気管支に対するPG類特有の作用も認められないことを見出した。

#### 基團を解決するための手数

本発明は13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類を有効成分とする眼圧降下剤を提供する。本発明において13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類とは、13-14位の炭素が飽和し、15位の炭素がカルボニル基であるPG類をいう。本明細書において13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は以下の命名の仕方によって確定する。即ち、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は下記基本骨格:



に基づき、この基本骨格のα-側、β-側および5員環を構成する炭素の番号はこれをそのまま用いる。即ち、基本骨格を構成する炭素の番号はカルボキ

シル基を1とし5員環に向って順に2~7までをα側上の炭素に、8~12までをβ側環の炭素に、13~20までをβ側上に行しているが、炭素数がα側上で減少する場合、2位から順次番号を抜削し、α側上で増加する場合2位の炭素にカルボキシル基(1位)に代わる置換基がついたものとして命名する。炭素数がβ側上で減少する場合、20位から炭素の番号を順次減じ、β側上で増加する場合、21番目以後の炭素原子は置換基として命名する。また、立体配置に関しては、特にことわりのない限り、上記基本骨格の有する立体配置に従うものとする。

また、例えばPGD、PGE、PGFは、9位および/または11位の炭素に水酸基を有する化合物を言うが、本明細書では9位および/または11位の水酸基に代えて他の基を有するものを包括してPG類と称し、その場合、9-デヒドロキシ-9-置換体あるいは11-デヒドロキシ-11-置換体の形で命名する。

本発明において用いられる13,14-ジヒドロ-

特開平2-108 (4)

10-15-ケト-PG類は、PG類の13-14位の炭素が飽和し、15位の炭素がカルボニル基を形成していればよく、5-6位の炭素結合が単結合である13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類、二重結合である13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類、5-6位の炭素結合および17-18位の炭素結合がいずれも二重結合である13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類のいずれであってもよい。

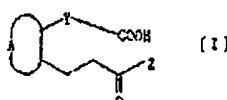
本発明に用いる代表的な13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は、例えば、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGA類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGA類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGA類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGB類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGB類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGB類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGC類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGC類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGC類、

13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGD類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGD類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGE類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGE類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGF類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGF類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGF類、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGS類あるいは、13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGS類などが挙げられる。

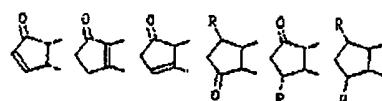
これら13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は、PG類が示す一過性的眼圧上昇を示すことなく、強い眼圧降下作用を発現し、なお、かつPG類で見られる粘膜、虹彩に強い充血や閉眼、涙潤などの副作用も全く認められないかあるいは著しく軽減されているので、これら13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は眼圧降下剤として

極めて有用である。またこの様な眼圧降下作用に鑑づき眼科治療薬として用いることができる。

本発明において13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類の眼圧降下作用体、特に一般式:



[式中、Aは]



または、



(ただし、Rは水酸基、ヒドロキシアルキル基またはアルキル基を表す);

Yは飽和または不飽和の、炭素数が2~8の炭化水素類(該炭化水素類を構成する炭素の一部は

カルボニル基を形成してよく、また炭化水素類は、原子または基によって置換されていてもよい);

Zは炭素数1~10の飽和または不飽和の鎖状あるいは環状の炭化水素類(該炭化水素類は極または原子によって置換されていてもよい);をそれぞれ表わす]で表わされるPG類またはその生理性的に訴われる物、あるいはカルボキシル基がエストル化されたものにおいて顯著である。Yが飽和または不飽和の、炭素数が2~8の炭化水素類としては、アルキル類、アルケニル類、アルキニル類等の医薬用炭化水素類が挙げられ、特に好ましくは炭素数6の炭化水素類である。

Yが不飽和炭化水素類の例は、例えば2~3位あるいは5~6位の炭素結合が二重結合もしくは三重結合であるPG類が例示される。

Yで示される炭化水素類は構成する炭素の一部はカルボニル基を形成しててもよく、その典型的な例は6位の炭素がカルボニル基を構成する6-ケト-PG類である。

Yで示される炭化水素類は原子または基によっ

## 特開平2-108 (5)

て置換されていてもよい。その様な原子または基の例はフッ素、塩素などのハロゲン原子、メチル、エチルなどのアルキル基、水酸基等であり、その典型的な例は3位の炭素にアルキル基を有するPG類である。

Zは炭素数1～10の飽和または不飽和の炭化水素基を示し、該炭化水素基はそれ自体環を形成していくともよく、あるいは、原子または基によって置換されていてもよい。

炭化水素基Zは炭素数3～9の直鎖のものが特に好ましい。炭素数5のものは $\omega$ 端の炭素数が8である一般的なPG類に該当するものである。従って、前述のごとく、Zで示される炭化水素基の炭素数が6以上のものは、 $\omega$ 端の2位迄の炭素の置換基として表現する。(即ちZの炭化水素基の炭素数が7のものは20-エチル-PG類と云う。)

不饱和結合は、Zのいかなる位置にあってもよいが、不饱和結合を有さないものの方が好ましい。Zが環を形成する炭化水素基の例は、 $\omega$ 端の1位または17位の炭素原子自体を環構成炭素とする

シクロペンチル基やシクロヘキシル基等がある。

Zで示される炭化水素基は原子または基によって置換されていてもよい。これらの原子または基はフッ素、塩素などのハロゲン原子、メチル、エチル、イソプロピル、イソブロペニルなどのアルキル基、メトキシ、エトキシなどのアルコキシ基；水酸基；フェニル基；フェノキシ基等である。置換する原子または基の位置は限定的ではないが、 $\omega$ 端の炭素番号で統一して16位、17位、19位および/または20位が典型的である。特に16位に1または2個の同一または異なる原子、例えばフッ素などのハロゲン原子または置換基、例えばメチル、エチルなどのアルキル基、水酸基、置換基を有することもあるフェニル基、ベンジル基、フェノキシ基あるいは、16位の炭素原子を環の構成原子とするシクロペンチル、シクロヘキシルなどのシクロアルキル基；17位または19位にメチルなどのアルキル基；20位にメチル、エチル、イソプロピル、イソブロペニルなどのアルキル基、メトキシ、エトキシ、ニトキシ、プロポキシなど

のアルコキシ基等を有する化合物が好ましい。

PG類にはPGD、PGE、PGFなど9位および/または11位の炭素に水酸基を有する化合物を含むが、本明細書では、9位および/または11位の水酸基に代えて、ヒドロキシアルキル基またはアルキル基を有する化合物もPG類に包含されたものとして扱う。従って、本発明の13、14-ジヒドロ-15-ケト-PG類には一般式(1)のRが水酸基、ヒドロキシアルキル基またはアルキル基である化合物が含まれる。ヒドロキシアルキル基としてはヒドロキシメチル基、1-ヒドロキシニチル基、2-ヒドロキシスチル基、1-メチル-1-ヒドロキシエチル基が好ましく、アルキル基としては低級アルキル基、特にメチル基、ニチル基等が好ましい。

9位および/または11位の炭素に関するRの立体配置は $\alpha$ 、 $\beta$ またはそれらの混合物であってもよい。

本発明PG類は、塩であってもあるいはカルボキシル基がエステル化されていてもよい。塩とし

ては生物学的に許容し得る塩、例えばナトリウム、カリウム等のアルカリ金属、カルシウム、マグネシウムのこととアルカリ土類金属の塩または生物学的に許容し得るアンモニウム塩、例えばアンモニア、メチルアミン、ジメチルアミン、シクロペンチルアミン、ベンジルアミン、ビペリジン、モノエタノールアミン、ジニタノールアミン、モノメチルモノエタノールアミン、トロメタミン、リジン、テトラアルキルアンモニウム塩等であってよい。エスチルとしては例えばメチル、エチル、プロピル、ブチル、イソプロピル、1-ブチル、2-エチル-ヘキシルの不飽和結合を有していてもよい置換または側鎖を有するアルキルエスチル等；例えばシクロプロピル、シクロペンチル、シクロヘキシル等の脂環式基を有するエステル；例えば、ベンジル、フェニル等の芳香族基を有するエスチル(芳香族基は置換基を有していてもよい)；例えば、ヒドロキシエチル、ヒドロキシイソブロピル、ヒドロキシプロピル、ポリヒドロキシエチル、ポリヒドロキシイソブロピル、メトキシ

## 特開平2-108 (6)

テル、エトキシエテル、メトキシソプロピル等のヒドロキシアルキルまたはアルコキシアルキルエステル；トリメチルシリル、トリユニチルシリル等のアルキルシリルエステル；テトラヒドロビチニルエスカルが例示される。

好みしいエステルは例えばメチル、エチル、ブロピル、ブチル、イソブロピル、ヒープチル等の直鎖または側鎖を有する低級アルキルエステル；ベンジルエステル；例えばヒドロキシエテル、ヒドロキシソプロピル等のヒドロキシアルキルエステルである。

本発明における13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類のα鎖末端のカルボキシル基は、上記のいずれであってもかまわないが、膜圧縮下作用の発現性などからみて、エステル体、特に直鎖1～4のアルキルニスチルが好みしい。

本発明13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類は上記した化合物の異性体を包含する。これらの異性体の例は、6位のカルボニル基と9位の水酸基間、11位の水酸基と15位のカルボニル

基間のケト-ヘミアセタール互変異性体、あるいは光学異性体、鏡面異性体等が例示される。

11位の水酸基と15位のカルボニル基間のケト-ヘミアセタール互変異性体は、特に13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類において16位に電子吸引基を、例えばフッ素原子を有する場合に形成され易い。

異性体の混合物、例えばラセミ体、互変異性体のヒドロキシ化合物とヘミアセタールの平衡混合物もそれれ単独の場合と同様の効果を示す。

本発明において好みしい13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類は5-6位の炭素結合が単結合または二重結合であるものあるいは各位の炭素がカルボニル基を形成するものである。また別の好みしい一群は炭素数が20～24の13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類である。さらにまた別の好みしい一群は16位の炭素にハロゲン原子またはアルキル基が置換した13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類である。さらには19位の炭素にアルキル基を有する炭素数20以

上の13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類である。

特に20位の炭素に炭素数1～4のアルキル基、例えばメチル基、エチル基、ブロピル基、ブチル基を有する化合物、即ち、側鎖を延長したものにおいて、膜圧縮下作用の発現性が高く、充血等の副作用もほとんど認められないので好みしい。

即ち、本発明に用いられる13,14-ジヒドロ-15-ケト-P G類においては、その5員環の構造にかかわらず、あるいは二重結合や、その他の置換基の有無にかかわらず、20位の炭素にアルキル基を有するものにおいて特に肝結果が得られる。特にアルキル基がエチル基(側鎖の直鎖の炭素数が1のもの)において、最も膜圧縮下作用が著しく、充血等の副作用が殆んどなく、副作用のみで最も好みしいものが得られる。

本明細書ではP G類の命名はプロスタン酸骨格に基づいて行う。これをUPACに基づいて命名すると、例えばP GE<sub>1</sub>は7-(1R,2R,3R)-3-ヒドロキシ-2(E)-(3S)-3-ヒ

ドロキシ-1-オクテニル]-5-オキソ-シクロベンチル]-ヘプタノ酸；P GE<sub>2</sub>は(2)-7-[(1R,2R,3R)-3-ヒドロキシ-2-(E)-(3S)-3-ヒドロキシ-1-オクテニル]-5-オキソ-シクロベンチル]-ヘプト-5-エン酸；13,14-ジヒドロ-15-ケト-16R,S-フルオロ-P GE<sub>3</sub>は(2)-7-[(1R,2R,3R)-2-[(4R,S)-4-フルオロ-3-オキソ-1-オクチル]-3-ヒドロキシ-5-オキソ-シクロベンチル]-ヘプト-5-エン酸；13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-11-デヒドロオキシ-11R-メチル-P GE<sub>4</sub>メチルエステルはメチル-7-(1R,2R,3R)-3-メチル-2-[3-オキソ-1-デシル]-5-オキソ-シクロベンチル]-ヘプト-5-エン酸；13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-18-メチル-P GE<sub>5</sub>エチルエステルはエチル-7-(1R,2R,3R)-3-ヒドロキシ-2-(7-メチル-3-オキソ-1-オクチル)-5-オキソ-シクロベンチル]-6-オキ

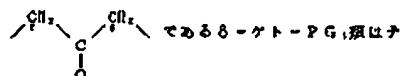
特開平2-108(7)

ソヘブタノエートである。また、PGF<sub>1</sub>αは7-[(1R,2R,3R,5S)-3,5-ジヒドロキシ-2-[(E)-(3S)-3-ヒドロキシ-1-オクテニル]-レクロベンチル]-ヘプタン酸である；PGF<sub>2</sub>αは(2)-7-[(1R,2R,3R,5S)-3,5-ジヒドロキシ-2-[(E)-(3S)-3-ヒドロキシ-1-オクテニル]-シクロベンチル]-5-ヘプト-5-エン酸であり；13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGF<sub>2</sub>αイソプロピルエステルはイソプロピル(2)-7-[(1R,2R,3R,5S)-3,5-ジヒドロキシ-2-[(3-オキソ-1-デシル)-シクロベンチル]-ヘプト-5-エノニートである；13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-メチル-PGF<sub>2</sub>αメチルエステルはメチル(2)-7-[(1R,2R,3R,5S)-3,5-ジヒドロキシ-2-[(3-オキソ-1-ノエル)-シクロベンチル]-ヘプト-5-エノニートである。また、他のPG類に關しても同様に命名することができる。

上記本発明13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は例えば特願昭63-18326号、特願昭63-18327号、特願昭63-108329号明細書等に記載の方法に従って製造することができる。これらの記載は本明細書の一部とする。

13,14-ジヒドロ-15-ケト体の製造法としては、市販の(-)コリーラクトンを出发原料とし、これをヨウ素化してアルデヒドを得、これにジメチル(2-オキソアルキル)ホスホネートアニオンを反応させて、α,β-不飽和ケトンを得、これを還元してケトンを得、脱ケトンのカルボニル基をジオールと反応させてケタールとして保護し、次いで脱-アフェニルベンゾイル化によってアルコールを得、この新たに生じた水酸基をジヒドロビテンで保護し、テトラヒドロビタニルエーテルとする。これによって、α鎖が13,14-ジヒドロ-15-ケトアルキル基であるPG類の誘導体を得る。

上記テトラビラニルエーテルを原料として



トラヒドロビラニルエーテルをジイソブタルアルミニウムヒドリドなどを用いて還元しテクトールを得、これに(4-カルボキシブチル)トリフェニルホスホニウムプロミドから得たイリドを反応させ、次いでエステル化した後、5-6位の二重結合と9位の水酸基とをNBSまたはヨウ素を用いて環化して、ハロゲン化物を得、これをDCCU等を用いて脱ハロゲン化して、8-ケト体を得、ヨウ素化後、保護基を外すことによって得ることができる。

さらに、  

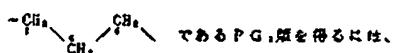
$$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ | \\ \text{C} \quad \text{C} \\ \text{CH}=\text{CH} \end{array}$$

であるPG<sub>1</sub>類は、

上記テトラヒドロビラニルエーテルを還元してテクトールを得、これに(4-カルボキシブチル)トリフェニルホスホニウムプロミドから得たイリドを反応させてカルボン酸を得、次いでエステル化した後、ヨウ素化し、次いで保護基を外す

ことにより得ることができる。

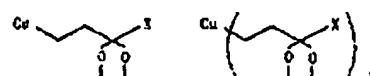
上記テトラヒドロビタニルエーテルを原料として、



$$\begin{array}{c} \text{CH}_3 \quad \text{CH}_3 \\ | \quad | \\ \text{C} \quad \text{C} \\ \text{CH}_3 \end{array}$$
 であるPG<sub>1</sub>類と同様にし、得られた化合物の5-6位の二重結合を接触還元し、次いで、保護基を外すことにより得ることができる。5、6および7位の環化水素類



である5,6-デヒドロ-PG<sub>1</sub>類の合成は、下に示すようなモノアルキル銅錯体あるいはジアルキル銅錯体



を4R-1-ブチルジメチルシリルオキシ-2-シクロベンテン-1-オノンに1,4-付加して生

## 特開平2-108(8)

じる鋼ニノレートをカルボアルコキシ-1-ヨード-2-ヘキシンあるいはこの誘導体で誘導することにより合成し得る。

1 位の水酸基の代りにメチル基を有するPG類の製造法としては、1-トシレート体の9位の水酸基をジョーンズ酸化して得られるPGAタイプ化合物に、ジメチル銅錯体を作用させることにより、1-デヒドロキシメチル-PGEタイプが得られる。あるいはローフェニルベンゾイル基を脱離後に得られるアルコールをトシレートとし、これをDBU処理して得られる不飽和ウクトンをチクトールとし、ウイティヒ反応を用いて $\alpha$ -側を導入後、得られるアルコール(9位)を酸化してPGAタイプとし、これへジメチル銅錯体を作用させることにより1-デヒドロキシメチル-PGEタイプが得られる。これを見れば水素化ホウ素ナトリウムで還元することにより1-デヒドロキシメチル-PGFタイプが合成し得る。

1 位の水酸基の代わりにヒドロキシメチル基

を有するPG類は、上記で得られたPGAタイプに対してベンゾフェノンを垣惑剤として用い、メタノールを充填加することにより1-デヒドロキシ-1-ヒドロキシメチル-PGをタイプが合成できる。これを見れば水素化ホウ素ナトリウムで還元することにより1-デヒドロキシ-1-ヒドロキシメチル-PGFタイプを合成し得る。

1-アルオロ-PG類は、 $\alpha, \beta$ -不飽和ケトンを導く際にジメチル(3-アルオロ-2-オキソアルキル)ホスホネートアニオンを用いればよく、1-メチル-PG類はジメチル(6-メチル-2-オキソアルキル)ホスホネートアニオンを用いればよい。

本発明において合成法は、これに限定されるものではなく、保護方法、酸化還元法等は適宜適当な手段を採用すればよい。

本発明】3.14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は動物およびヒト用の薬剤として使用してもよく、通常、全身的あるいは局所的に経口、静脈

内注射、皮下注射、点滴、点滴剤、吸収膏などの方法で使用される。投与量は動物、ヒト、年令、体重、症状、治療効果、投与方法、処理時間等により異なる。

本発明による経口投与のための固体組成物としては、難溶、粉剤、顆粒等が含まれる。このような固体組成物においては、またはそれ以上の活性物質が、少なくとも1つの不活性な着色剤、例えば、乳糖、マンニトール、グリセリン、ヒドロキシプロピルヒルロース、散結晶セルロース、デンプン、ポリビニルビロドン、メタケイ酸アルミニウムガムシウムと配合される。組成物は常法に従って、不活性な着色剤以外の着色剤、例えばステアリン酸マグネシウムのような滑潤剤や崩壊剤グルコン酸カルシウムのような崩壊剤、 $\alpha, \beta$ または $\gamma$ -シクロデキストリン、ジメチル- $\alpha$ -、ジメチル- $\beta$ -、トリメチル- $\beta$ -またはヒドロキシプロピル- $\alpha$ -、 $\beta$ -シクロデキストリン等のエーテル化シクロデキストリン、グルコシル-、マルトシル-シクロデキストリン等の分枝シクロデキ

ストリン、ホルミル化シクロデキストリン、還元合有シクロデキストリン、ミソプロトール、リン脂質のような安定剤を含んでいてもよい。上記シクロデキストリン類を用いた場合はシクロデキストリン類と包接化合物を形成して安定性が増大する場合がある。また、リン脂質を用いたリボソーム化することにより安定性が増大する場合がある。鎮咳または抗利尿は必要により白薬、ゼラチン、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロースアラートなどの胃溶性あるいは腸溶性物質のフィルムで被覆してもよいし、また2以上の層で被覆してもよい。さらにゼラチンのような被覆され得る物質のカプセル剤としてもよい。

経口投与のための液体組成物は、通常的に許容される抗発剤、溶媒剤、整腸剤、シロップ剤、エリキシル剤等を含んでよく、一般的に用いられる不活性な着色剤、例えば精製水、エタノール等を含んでもよい。この組成物は不活性な着色剤以外に潤滑剤、整腸剤のような補助剤、甘味剤、風

## 特開平2-108(9)

朱剤、芳香剤、防腐剤等を含有していてもよい。

括り投与のためのその他の組成物としては、1つまたはそれ以上の液体物質を含み、それ自体公知の方法により処方されるスプレー剤が含まれる。

本発明による深経口投与のための注射剤としては無菌の水性または非水性の溶媒剤、緩衝剤、乳剤剤等であってもよい。

水性の溶媒剤、緩衝剤用の着色剤としては、例えば注射用蒸留水、注射食塩水およびリングル液等がある。

非水性の溶媒剤や緩衝剤用の着色剤としては、例えばプロピレングリコール、ポリエチレングリコール、オリーブ油のような植物油、エタノールのようなアルコール類、ポリソルベート等がある。このような組成物は、さらに着色剤、緩衝剤、乳化剤、分散剤、安定剤のような補助剤を含んでいてもよい。これらは例えばバクテリア保留フィルターを通過後、殺菌剤の配合、ガス滅菌または放射線滅菌によって無害化される。これらはまた無菌の固体組成物を製造し、使用前に無菌水また

は無菌の注射用溶媒に溶解して使用することもできる。

本発明による点眼剤としては、無菌の水性または非水性の溶媒剤、緩衝剤等であってよい。水性の溶媒剤、緩衝剤用着色剤としては蒸留水、注射食塩水が含まれる。非水性の溶媒剤、緩衝剤用着色剤としては、食物油、潤滑パラフィン、試験油、プロピレングリコール、p-オクチルドデカノール等がある。さらに皮膚と密接にすることを目的として塗化ナトリウム、塗化ベンザルコニウム、塗化フェドリン、塗化プロカイン、クロラムフェニコール、クエン酸ナトリウム等の等張化剤、pHを一定に保持することを目的としてホウ酸緩衝液、リン酸緩衝液等の緩衝液を用いることができる。また、西酸鈉ナトリウム、炭酸ナトリウム、BDTA、プロピレングリコール等の安定剤、グリセリン、カルボキシメチルセルロース、カルボキシビニルポリマー等の粘稠剤、ポリソルベート、マクロゴール、モノステアリン酸アルミニウム等の着色剤、パラベン、ベンジルアルコール、ソルビ

ン酸等の保存剤あるいはさらに溶解補助剤、試験油を含んでいてもよい。これらは例えばバクテリア保留フィルターを通過後、加熱滅菌によって無害化される。点眼剤の調製において特に重要な点は点眼剤のpHとイオン強度であり、用いる活性物質あるいは他の添加剤の種類と量によって最適値に適宜、調整すればよい。

本発明による歯磨剤としては、ワセリン、ゼレン50、プラスチベース、マクロゴール等を基剤とし、水性を高めることを目的としてポリソルベート、界面活性剤、カルボキシメチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシビニルポリマーなどのゼリー剤等を含んでいてもよい。

本発明の歯磨剤下剤はこの歯磨剤下作用を利用して歯内障害剤として利用し得る。歯内障害剤として用いるときは従来のコリン系歯磨剤下剤(例えばピロカルピン、陰離効果に優れたカルバコール等)、抗コリンステチーゼ(例えばデメカリウム、D.F.P.、エコチオフェート等)、緩慢剤

としてサリチル酸ファイゾスマグミン、塗膜ビロカルピン等、静脈用高張速効剤として、マニニトル、グリセリン、イソソルバイト等、点眼剤用防腐剤としてクロロブタノール、ベンズアルコニウムクロリド、プロピルパラベン、メチルパラベン、エチルパラベン、メチルパラベン等、他の虫歯疾患予防および治療に、ベニシリン、ナラフナ前、クロラムフェニコール、コルチネゾン、クロルフェニラミン等を配合してもよい。

以下、実施例を挙げて本発明を説明する。

### 実施例

13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGA、イソプロピルエスチル、13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGB、イソプロピルニスチルおよび13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGF、イソプロピルエスチルの合成(合成チャート1参照):  
(1) 19-2-オキサ-3-オキソ-6R-(3-オキソ-1-オキソ-3-オキソ-6R-(3-オキソ-1-オキソ-3-オキソ-6R-(4-アセニルベンゾイルオキシ)-シス-ビシグ

## 特開平2-108 (10)

### ロ [3.3.0] オクタン(3)の合成:

市販の(-)-コリーラクトン(1)(7g)をジクロルメタン中コリンズ酸化し、アルデヒド(2)を得た。これをジメチル(2-オキソノニル)ホスホネート(4,97g)アニオンと反応させ、1S-2-オキサ-3-オキソ-6R-(3,3-エチレンジオキシ-1-トランスクロセニル)-7R-(4-フェニルベンゾイルオキシ)-シス-ビシクロ[3.3.0]オクタン(3)を得た。

(2) 1S-2-オキサ-3-オキソ-6R-(3-オキソデシル)-7R-(4-フェニルベンゾイルオキシ)-シス-ビシクロ[3.3.0]オクタン(4)の合成:

不溶和ケトン(3)(7.80g)を酢酸エチル(17.0ml)中、5%Pd/炭酸および水素を用いて還元した。常法処理により得られた生成物(4)を次の反応に用いた。

(3) 1S-2-オキサ-3-オキソ-6R-(3,3-エチレンジオキシデシル)-7R-(4-フェニルベンゾイルオキシ)-シス-ビシクロ[3

### 3.01 オクタン(5)の合成:

飽和ケトン(4)を乾燥ベンゼン(15.0ml)中、エチレンジアミンおよびp-トルエンスルホン酸(触媒量)を用いてケタール(5)とした。

(4) 1S-2-オキサ-3-オキソ-6R-(3,3-エチレンジオキシデシル)-7R-ヒドロキシ-シス-ビシクロ[3.3.0]オクタン(6)の合成:

ケタール(5)を無水メタノール(15.0ml)に溶解し、炭酸カリウム(2,73g)を加え、密閉で終夜攪拌した。酢酸を加え中和した後、減圧濃縮した。得られた粗生成物を酢酸エチルで抽出し、希硫酸、食塩水で洗浄後、乾燥した。常法処理により得られた粗生成物をクロマトグラフィーし、アルコール(6)を得た。収量: 3.31g。

(5) ラクトール(7)の合成:

アルコール(6)(0.80g)を-7.8℃で乾燥トルエン(8ml)中、DIBAL-Hで還元し、ラクトール(7)を得た。

(6) 1,3,14-ジヒドロ-1S,15-エチ

### レンジオキシ-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>(8)の合成:

(4-カルボキシブチル)トリフェニルホスホニウムプロミド(3.65g)から調整したイリドニアラクトール(7)のDMSO溶液を加え、終夜搅拌し、カルボン酸(8)を得た。

(7) 13,14-ジヒドロ-1S,15-エチレンジオキシ-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(9)の合成:

カルボン酸(8)をアセトニトリル中、DBUおよびジヨウ化イソプロピルを用いて、13,14-ジヒドロ-1S,15-エチレンジオキシ-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(9)を得た。収量: 0.71g。

(8) 13,14-ジヒドロ-1S-ケト-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(10)の合成:

13,14-ジヒドロ-1S,15-エチレンジオキシ-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(9)(0.71g)を酢酸/水(3

/1/1)に4.0hに3時間保った。減圧濃縮して得られた粗生成物をクロマトグラフィーし、13,14-ジヒドロ-1S-ケト-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(10)を得た。収量: 0.554g。

(9) 13,14-ジヒドロ-1S-ケト-20-エチル-PGA<sub>1</sub>イソプロピルエステル(12)の合成:

13,14-ジヒドロ-1S-ケト-20-エチル-PGF<sub>1α</sub>イソプロピルエステル(10)(0.125g)および塩化p-トルエンスルホニル(0.112g)のビリジン溶液(5ml)を0℃に2日間保った。常法処理によりトシレート(11)を得た。

トシレート(11)をアセトン(8ml)中、-25℃でジオーンズ酸化した。常法処理後に得られた粗生成物をクロマトグラフィーし、13,14-ジヒドロ-1S-ケト-20-エチル-PGA<sub>1</sub>イソプロピルエステル(12)を得た。収量: 0.960g。

特開平2-108 (11)

(10) 13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルシメチルシロキシ-PGF<sub>2α</sub> イソプロピルエステル(13)の合成:

13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-PGF<sub>2α</sub> イソプロピルエステル(9)(3.051g)をN,N-ジメチルホルムアミド(25ml)に溶解し、塩化*l*-ブチルジメチルシリル(1.088g)、イミダゾール(0.49g)を加え、室温で終夜攪拌した。反応液を減圧濃縮し、得られた粗生成物をクロマトグラフィーし、13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルジメチルシロキシ-PGF<sub>2α</sub> イソプロピルエステル(3)を得た。収量: 2.643g。

(11) 13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルジメチルシロキシ-PGE<sub>2</sub> イソプロピルエステル(14)の合成:

13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジ

オキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルジメチルシロキシ-PGF<sub>2α</sub> イソプロピルエステル(13)(0.171g)を常圧に突い、塩化メチレン中、室温でコリンズ酸化(20当量)した。50分後、反応液に硫酸水素ナトリウム(1.15g)を加え撹拌した。溶液を濾絞し、得られた粗生成物をクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル: 10:1)した。13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルジメチルシロキシ-PGE<sub>2</sub> イソプロピルエステル(14)が得られた。収量: 0.153g(89%)。

(12) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGE<sub>2</sub> イソプロピルエステル(15)の合成:

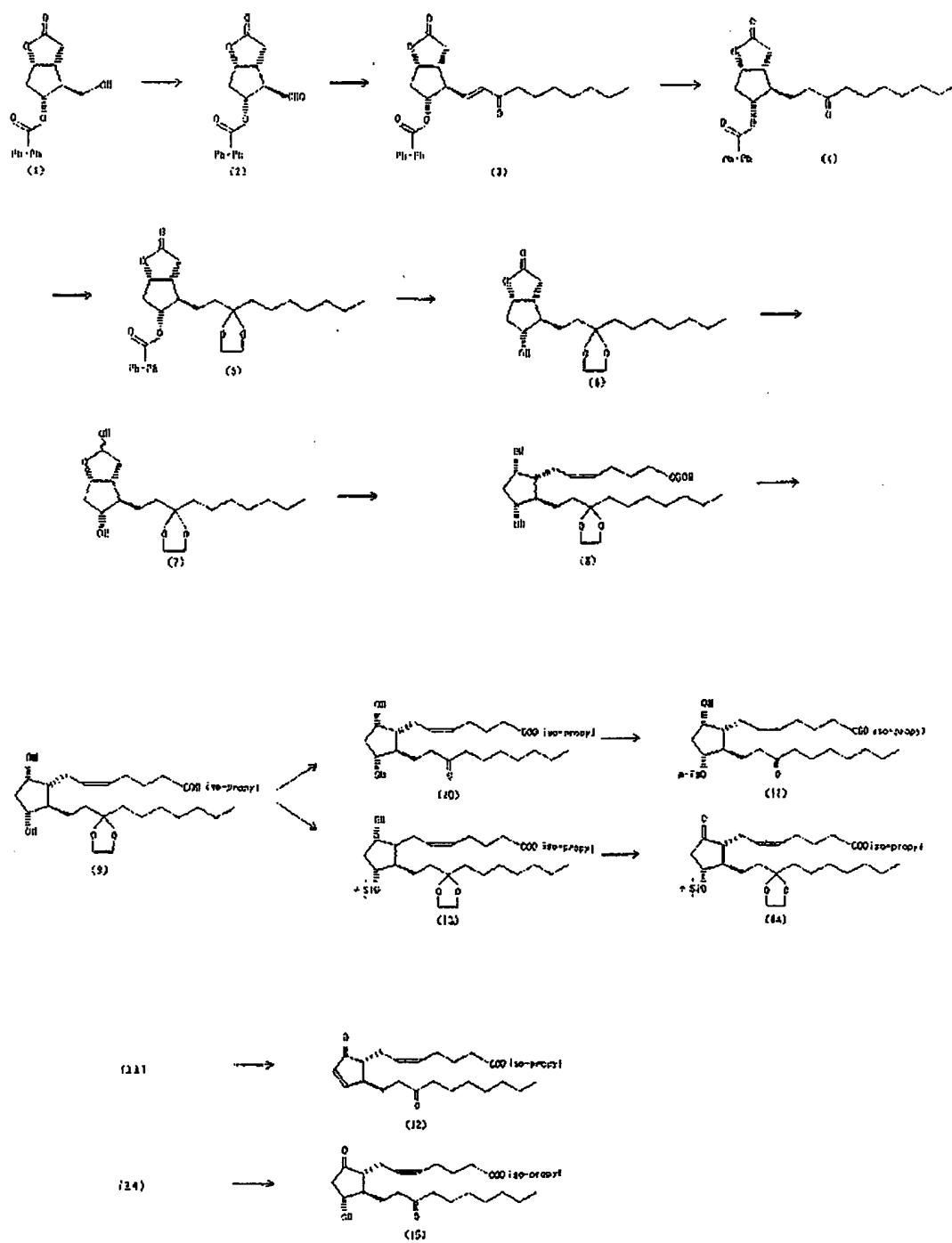
13,14-ジヒドロ-15,15-エチレンジオキシ-20-エチル-11-*l*-ブチルジメチルシロキシ-PGE<sub>2</sub> イソプロピルエステル(14)(0.089g)をアセトニトリルに溶解し、0℃でアッ化水素酸の46%水溶液(1ml)を加え、室温で40分攪拌した。反応液を常圧に突い処理

して、得られた粗生成物をクロマトグラフィーし、13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGE<sub>2</sub> イソプロピルエステルを得た。収量: 0.063g(97%)。

<sup>1</sup>H NMR: δ 0.86(3H, l, J = 5 Hz), 2.20(6H, 4.3 = 6.5 Hz), 1.05~2.96(29H, n), 4.01(1H, n), 4.95(1H, hept, J = 6.5 Hz), 5.34(2H, n)。  
Mass(EI): m/z 422(M<sup>+</sup>), 404(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 345(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O-i-C<sub>3</sub>H<sub>6</sub>O)。

特開平2-108(12)

合規性 - 1



### 時間平2-108 (13)

#### 試験因上

銀座測定のため、日本白色種雄性ウサギ(体重2.5~3.0kg)を固定器に固定し、0.4%塩酸オキシプロカインで麻酔麻酔したのち、日本アルコン社製空圧圧平式電子銀座計を用いて、銀座を測定した。

被験薬は生理食塩水に懸濁し、その5.0μg(被験薬として2.5μg/eye)を片眼に点眼した。また、もう一方の眼には生理食塩水を点眼した。点眼後、1時間ごとに6時間まで銀座を測定した。なお、ウサギは1群り別とし、被験薬投与の銀座の各時間ごとの平均値を求めた。結果を第1回に示す。

#### 被験薬

(1) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

B<sub>1</sub>: (O.....O)

(2) PGE<sub>1</sub>: (●.....●)

以上の結果より、代謝物として知られる13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG<sub>1</sub>をはじめとする13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

薬は、銀座低下作用を有するとともにPGE<sub>1</sub>をはじめとするPG類が有する一過性の銀座上昇を示さないことが認められる。

#### 試験因2

銀座測定のため、日本白色種雄性ウサギ(体重2.5~3.0kg)を固定器に固定し、0.4%塩酸オキシプロカインで点眼麻酔したのち、日本アルコン社製空圧圧平式電子銀座計を用いて銀座を測定した。片眼に生理食塩水に被験薬を懸濁した液を5.0μg点眼し、銀座を測定し、各々の被験薬の銀座低下度(%)を求めた。同時に目の充血度合を観察した。結果を表-1に示す。

#### \*充血度合

- : ほとんどなし

± : ごく弱い充血

+: 弱い充血

++ : はっきりとした充血

+++ : ひどい充血

表-1 (1)

被験薬	濃度 (μg/eye)	銀座低下度 (%)	充血度合
(1)	1.00	22	+
(2)	1.00	26	+
(3)	1.00	24	+
(4)	1.00	30	+
(5)	1.00	31	-
(6)	1.00	33	-
(7)	5.0	23	-
(8)	5.0	27	-
(9)	1.00	40	++

(4) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

A<sub>1</sub>イソプロピルエステル

(5) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20

-エチル-PGA<sub>1</sub>メチルエステル

(6) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20

-エチル-PGA<sub>1</sub>イソプロピルエステル

(7) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20

-エチル-PGA<sub>1</sub>メチルニスチル

(8) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20

-エチル-PGA<sub>1</sub>イソブロピルエステル

(9) PGA<sub>1</sub>

#### 被験薬:

(1) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

A<sub>1</sub>メチルエステル

(2) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

A<sub>1</sub>イソプロピルエステル

(3) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PG

A<sub>1</sub>エチルエステル

特開平2-108(14)

表-1(2)

被験藻	濃度 ( $\mu\text{g}/\text{ml}$ )	鉛沈下率 (%)	完血度合
(10)	250	7	+
(11)	250	10	+
(12)	250	15	+
(13)	250	20	+
(14)	250	21	-
(15)	250	23	-
(16)	100	15	-
(17)	100	20	-
(18)	250	25	++

(13) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 B,イソプロピルエステル  
 (14) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,メチルエステル  
 (15) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,イソプロピルエステル  
 (16) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,メチルエステル  
 (17) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,イソプロピルエステル  
 (18)  $\text{PGC}$ ,

被験藻:

(16) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 B,メチルエステル  
 (17) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 B,イソプロピルエステル  
 (18) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 B,メチルエステル

表-1(3)

被験藻	濃度 ( $\mu\text{g}/\text{ml}$ )	鉛沈下率 (%)	完血度合
(19)	250	8	+
(20)	250	11	+
(21)	250	18	+
(22)	250	20	+
(23)	250	20	-
(24)	250	22	-
(25)	100	21	-
(26)	100	25	-
(27)	250	23	++

(22) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 C,イソプロピルエステル  
 (23) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,メチルエステル  
 (24) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,イソプロピルエステル  
 (25) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,メチルエステル  
 (26) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 -エチル- $\text{PGC}$ ,イソプロピルエステル  
 (27)  $\text{PGC}$ ,

被験藻:

(19) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 C,メチルエステル  
 (20) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 C,イソプロピルエステル  
 (21) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\text{PG}$   
 C,メチルエステル

特開平2-108(16)

表-1(4)

被験薬	濃度 ( $\mu\text{g}/\text{eye}$ )	眼圧下降低度 (%)	充血度合
(28)	250	15	±
(29)	250	17	±
(30)	250	20	±
(31)	250	18	±
(32)	250	21	±
(33)	250	25	±
(34)	250	23	±
(35)	100	13	+
(36)	250	28	±
(37)	250	30	±
(38)	250	24	±
(39)	250	28	±
(40)	250	31	±
(41)	100	18	~
(42)	100	20	~
(43)	100	25	~

被験薬:

(28) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- PG  
D<sub>1</sub>メチルエステル  
(29) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- PG  
D<sub>1</sub>エチルエステル  
(30) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- PG  
D<sub>1,2</sub>-ブチルエステル  
(31) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- PG  
D<sub>1,2</sub>-デヒドロ-9 $\beta$ -PGD<sub>1</sub>  
(32) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 5,6  
-デヒドロ-9 $\beta$ -PGD<sub>1</sub>,メチルエステル  
(33) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 5,6  
-デヒドロ-9 $\beta$ -PGD<sub>1</sub>  
(34) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 5,6  
-デヒドロ-9 $\beta$ -PGD<sub>1</sub>,メチルエステル  
(35) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 16  
-R,3-フルオロ- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル  
(36) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 16  
-16-ジメチル- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル  
(37) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 19

-メチル- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル

(38) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20

-メトキシ- PGD<sub>1</sub>

(39) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20

-メトキシ- PGD<sub>1,2</sub>-ブチルエステル

(40) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 16

-R,S-メチル- 20-メトキシ- PGD<sub>1</sub>,メチ

ルエステル

(41) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20

-ニチル- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル

(42) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20

-ニチル- PGD<sub>1</sub>,エチルエステル

(43) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20

-エチル- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル

表-1(5)

被験薬	濃度 ( $\mu\text{g}/\text{eye}$ )	眼圧下降低度 (%)	充血度合
(44)	100	23	-
(45)	100	20	-
(46)	250	28	+++

被験薬:

(44) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20  
-エチル- PGD<sub>1</sub>,エチルエステル  
(45) 13,14-ジヒドロ-15-ケト- 20  
-メトキシエチル- PGD<sub>1</sub>,メチルエステル  
(46) PGD<sub>1</sub>

表-1(6)

被験薬	濃 度 ( $\mu g/eye$ )	眼圧下降低度 (%)	充血度合
(47)	5.0	3.0	+
(48)	1.0	2.0	+
(49)	1.0	1.8	+
(50)	1.0	2.3	+
(51)	2.5	2.5	+
(52)	2.5	3.2	+
(53)	2.5	1.8	+
(54)	2.5	2.0	+
(55)	2.5	2.3	+
(56)	2.5	1.6	+
(57)	1.0	3.2	+
(58)	1.0	3.0	+
(59)	1.0	3.1	+
(60)	5	2.6	+
(61)	1.0	1.8	+
(62)	1.0	2.1	+

被験薬:

(47) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (48) 13,14-オージヒドロ-6,15-ジケト-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (49) 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-PGE<sub>2</sub>,α-ブチルエステル  
 (50) ± 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (51) 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-11-デヒドロキシ-11R-メチル-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (52) 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-10R,S-フルオロ-11-デヒドロキシ-11R-メチル-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (53) 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-16-ジメチル-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (54) 13,14-ジヒドロ-6,15-ジケト-19-メチル-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル  
 (55) 13,14-ジセドロ-8,15-ジケト-

11-デヒドロキシ-11R-ヒドロキシメチル-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル  
 (56) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGE<sub>2</sub>,  
 (57) 13,14-ジヒドロ-16-ケト-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル  
 (58) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-PGE<sub>2</sub>,イソプロピルエステル  
 (59) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-Δ<sup>16</sup>-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル  
 (60) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-16R,S-フルオロ-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (61) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-3,16-ジメチル-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル  
 (62) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-16R,S-ヒドロキシ-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル

表-1(7)

被験薬	濃 度 ( $\mu g/eye$ )	眼圧下降低度 (%)	充血度合
(63)	1.0	2.5	+
(64)	2.5	2.1	+
(65)	2.5	1.9	±
(66)	2.5	2.3	+
(67)	2.5	2.0	-
(68)	2.5	2.5	-
(69)	1.0	3.0	-
(70)	1.0	3.1	-
(71)	1.0	2.4	-
(72)	1.0	1.2	-
(73)	1.0	3.2	++ <sup>3</sup>

\* 閉眼および後退が認められる。

被験薬:

(63) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-16-メチル-PGE<sub>2</sub>,エチルエステル  
 (64) 13,14-ジヒドロ-15-ケト-20-メトキシ-PGE<sub>2</sub>,メチルエステル

特開平2-108 (17)

(65) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-メトキシ-Δ<sup>4</sup>-PGE, メチルエステル  
(66) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-16  
-ジチル-20-メトキシ-PGE, メチルエ  
ステル  
(67) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGE, メチルエステル  
(68) 13, 14-ジヒドロ-8, 15-ジケト-  
20-メチル-PGE, エチルエステル  
(69) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGE, メチルエステル  
(70) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGE, エチルエステル  
(71) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-オ-プロピル-PGE, メチルエステル  
(72) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-11-デヒドロキシ-11R-メチル  
-PGE, メチルエステル  
(73) PGE,

表-1 (8)

被験番	濃 度 ( $\mu$ g/eye)	眼底下屈度 (%)	充血度合
(74)	100	28	+
(75)	100	22	+
(76)	100	33	+
(77)	100	38	+
(78)	20	25	+
(79)	10	42	±
(80)	100	41	+
(81)	250	21	+
(82)	250	40	+
(83)	100	33	±
(84)	25	17	-
(85)	50	28	-
(86)	50	28	-
(87)	50	25	-
(88)	50	23	-
(89)	250	23	+

被験番:

(74) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-PG  
F,  $\alpha$ ニチルエステル  
(75) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-PG  
F,  $\alpha$ メチルエステル  
(76) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-PG  
F,  $\alpha$ ニチルエステル  
(77) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-9 $\beta$ ,  
11 $\alpha$ -PGP,  $\alpha$ メチルエステル  
(78) 13, 14-クビドロ-15-ケト-16  
R, S-フルオロ-PGF,  $\alpha$   
(79) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-16  
R, S-フルオロ-PGP, メチルエステル  
(80) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-16  
R, S-フルオロ-11-デヒドロキシ-11R  
-ノチル-PGF,  $\alpha$ メチルエステル  
(81) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-16,  
16-ジメチル-PGF,  $\alpha$ エチルエステル  
(82) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-17  
S-メチル-PGP,  $\alpha$ エチルエステル

(83) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGF,  $\alpha$ メチルニスチル  
(84) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGF,  $\alpha$   
(85) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGF,  $\alpha$ メチルエステル  
(86) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGP,  $\alpha$ エチルエステル  
(87) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGF,  $\alpha$ イソプロピルエステル  
(88) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-PGF,  $\alpha$ ノ-ブチルエステル  
(89) 13, 14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-メチル-PGP,  $\alpha$ メチルエステル

特開平2-108(18)

表-1(9)

試験番	濃 度 ( $\mu$ g/era)	吸光度 (%)	充電混合
(90)	250	25	+
(91)	250	26	-
(92)	25	43	±
(93)	10	26	±
(94)	250	30	-
(95)	250	18	-
(96)	100	46	+++*
(97)	25	27	+++*
(98)	25	31	+++*

\* 開閉および流涙が感られる。

被験薬:

(90) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-o-ブロピル- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチルエステル  
(91) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-o-ブチル- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチルエステル  
(92) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-16R,S-フルオロ- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>

(93) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-16R,S-フルオロ- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチ  
ルエステル

(94) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-11-デヒドロキシ-11R-メチル  
- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチルエステル

(95) 1,3,14-ジヒドロ-15-ケト-20  
-エチル-16R,S-フルオロ-11-デヒド  
ロキシ-11R-メチル- $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチルエス  
テル

(96)  $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>

(97)  $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>メチルエステル

(98)  $\alpha$ -PGF<sub>1,2</sub>イソプロピルエステル

試験例2で用いた被験薬のn.m.r.およびMass  
を示す。

<sup>1</sup>H NMR: 日立製作所 R-90H

溶媒: 重クロロホルム

Mass: 日立製作所 M-30B

E I 伝: イオン化電圧 70 eV

SIMS 伝: 銀板-ダリセリンマトリックス

(3)  $\delta$ : 0.88(3H,t,J = 6 Hz), 1.2  
5(3H,t,J = 7 Hz), 1.10~2.75(22  
H,s), 4.11(2H,q,J = 7 Hz), 5.37(2  
H,m), 6.12(1H,dd,J = 6 Hz,J = 2.5 Hz),  
7.53(1H,dd,J = 6 Hz,J = 3 Hz),

(8)  $\delta$ : 0.36(3H,t,J = 5.5 Hz),  
1.21(8H,q,J = 6 Hz), 1.05~2.75  
(26H,s), 4.96(1H,hept,J = 6 Hz),  
5.37(2H,s), 8.09(1H,dd,J = 6 Hz,  
J = 2 Hz), 7.50(1H,dd,J = 6 Hz,J =  
2.5 Hz),

Mass(E I) n/z: 404(M<sup>+</sup>), 345(M<sup>+</sup>  
-i-C<sub>3</sub>H<sub>7</sub>O).

(30)  $\delta$ : 0.89(3H,t,J = 6 Hz), 1.2  
6(3H,t,J = 7 Hz), 1.06~2.93(25  
H,s), 4.13(2H,q,J = 7 Hz), 4.41(1  
H,q), 5.47(2H,s),

(34)  $\delta$ : 0.89(3H,t,J = 6 Hz), 1.0  
9~2.98(25H,s), 3.63(3H,s), 4.  
19(1H,s).

(35)  $\delta$ : 0.91(3H,t,J = 6 Hz), 1.1  
~2.93(23H,s), 3.64(3H,s), 4.3  
~4.5(1.5H,s), 4.98(0.5H,dd,J =  
6 Hz), 5.50(2H,s),

Mass(SIMS) n/z: 385(M<sup>+</sup>+H), 3  
67(M<sup>+</sup>+1-H<sub>2</sub>O), 385(M<sup>+</sup>+1-HF),

(37)  $\delta$ : 0.80(6H,d,J = 7 Hz), 0.9  
4~2.90(24H,s), 3.64(3H,s), 4.  
38(1H,s), 5.43(2H,s),

Mass(E I) n/z: 360(M<sup>+</sup>), 362(M<sup>+</sup>  
-H<sub>2</sub>O), 331, 234, 222,

(40)  $\delta$ : 1.05(3H,s,J = 7 Hz), 0.8  
0~2.83(24H,s), 3.28(3H,s), 3.  
32(2H,t,J = 8 Hz), 3.64(3H,s), 4.  
28~4.47(1H,s), 5.44(2H,s),

(45)  $\delta$ : 1.10~2.95(29H,s), 3.  
30(3H,s), 3.33(2H,t,J = 8 Hz), 3.  
66(3H,s), 4.38(1H,s), 5.44(2H,  
s),

(55)  $\delta$ : 0.86(6H,d,J = 6 Hz), 0.9

特征峰2-108(19)

9~2.98(2H,m), 2.71(1H,a), 3.03(3H,s), 3.56~3.81(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 410(M<sup>+</sup>), 392(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 379, 361.  
 (S8) δ: 0.88(3H,t,J=6Hz), 1.22(6H,4,J=6.5Hz), 1.07~3.03(2.5H,a), 4.03(1H,a), 4.97(1H,bept,J=8.5Hz), 5.37(2H,a),  
 (67) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.03~2.84(3.3H,m), 3.84(3H,s), 3.98(1H,a).  
 (68) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.23(3H,t,J=7Hz), 1.03~2.88(2.9H,m), 4.02(2H,a,J=7Hz), 3.88~4.23(1H,a).  
 (69) δ: 0.88(3H,t,J=6Hz), 1.07~2.90(2.9H,a), 3.64(3H,s), 4.02(1H,a), 5.35(2H,a).  
 (70) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.23(3H,t,J=7Hz), 1.07~2.83(2.9H,m), 4.08(2H,a,J=7Hz), 3.83(1H,a), 4.08(2H,a,J=7Hz), 3.79~4.22(1H,a), 5.34(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 408, 390, 345, (71) δ: 0.87(3H,t,J=5Hz), 1.09~2.83(3H,m), 3.63(3H,s), 3.88~4.15(1H,a), 5.34(2H,a).  
 Mass(SIMS) m/z: 409, 391, 369.  
 (72) δ: 0.87(3H,t,J=5Hz), 1.11(3H,d,J=8Hz), 1.00~2.60(2.9H,a), 3.63(3H,s), 5.33(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 392, 374, 363, 349.  
 (83) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.15~2.70(3.4H,a), 3.63(3H,s), 3.88(1H,a), 4.15(1H,a).  
 Mass(EI) m/z: 398(M<sup>+</sup>), 380(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 362, 349.  
 (84) δ: 0.86(3H,t,J=6Hz), 1.15~2.70(2.8H,a), 3.65(1H,a), 4.

1.2(1H,a), 5.10~5.75(5H,a).  
 Mass(EI) m/z: 364(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 346.  
 (85) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.10~2.65(3.0H,m), 3.63(3H,s), 3.85(1H,a), 4.13(1H,a), 5.38(2H,a).  
 Mass(SIMS) m/z: 397(M<sup>+</sup>+1), 379(M<sup>+</sup>+1-H<sub>2</sub>O), 361(M<sup>+</sup>+1-2H<sub>2</sub>O), 345, 330.  
 (86) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.24(3H,t,J=7Hz), 1.10~2.95(3.0H,m), 3.85(1H,a), 4.08(2H,a,J=7Hz), 3.83~4.25(1H,a), 5.38(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 410(M<sup>+</sup>), 392(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 374.  
 (87) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.22(6H,a,J=6.5Hz), 1.10~2.75(3.0H,m), 3.85(1H,a), 4.13(1H,a), 4.05(1H,hept,J=8.5Hz), 5.38(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 424(M<sup>+</sup>), 406(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 388, 347.  
 (88) δ: 0.70~1.03(6H,a), 1.10~3.05(3.4H,a), 3.84(1H,a), 4.03(2H,t,J=6.5Hz), 4.10(1H,a), 5.38(2H,a).  
 Mass(EI) m/z: 420(M<sup>+</sup>), 402(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O), 376, 347.  
 (89) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.15~2.70(2.8H,a), 3.62(3H,s), 3.83(1H,a), 4.12(1H,a), 5.37(2H,a).  
 Mass(SIMS) m/z: 383(M<sup>+</sup>+1), 365(M<sup>+</sup>-1-H<sub>2</sub>O), 347.  
 (90) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.10~2.70(3.2H,a), 3.63(3H,s), 3.85(1H,a), 4.12(1H,a), 5.38(2H,a).  
 (91) δ: 0.87(3H,t,J=6Hz), 1.15~2.70(2.8H,a), 3.62(3H,s), 3.83(1H,a), 4.12(1H,a), 5.37(2H,a).

## 特開平2-108(20)

0~2.70(3.4H,s)、3.63(3H,s)、3.83(1H,m)、4.12(1H,m)、5.38(2H,s),  
(92) δ: 0.87(3H,t,J=8Hz)、1.10~2.90(2.6H,s)、3.87(1H,s)、4.12(1H,s)、4.43(0.5H,s)、4.50~5.10(3H,brs)、4.99(0.5H,s)、5.38(2H,s)。

Mass(EI) m/z: 400(M<sup>+</sup>)、382(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O)、352、344。

(94) δ: 0.87(3H,t,J=5.5Hz)、1.06(3H,d,J=6Hz)、1.15~2.55(3.0H,s)、3.63(3H,s)、4.08(1H,s)、5.38(2H,s)。

Mass(EI) m/z: 394(M<sup>+</sup>)、375(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O)、358、344。

(95) δ: 0.88(3H,t,J=6Hz)、1.08(3H,d,J=6Hz)、1.15~2.75(2.8H,s)、3.63(3H,s)、4.08(1H,s)、4.42(0.5H,s)、4.97(0.5H,s)、5.38

(2H,s)。

Mass(EI) m/z: 412(M<sup>+</sup>)、394(M<sup>+</sup>-H<sub>2</sub>O)。

### 実験例3

膜圧測定のため、日本白色着色性ウサギ(体重2.5~3.0kg)を飼育器に固定し、0.4%恒酸オキシブロカインで点眼麻酔したのち、日本アルコン社製空圧平式電子膜圧計を用いて、膜圧を測定した。

被験薬は生理食塩水に懸滴し、その50μl(被験薬として25μg/eye)を片眼に点眼した。また、もう一方の眼には生理食塩水を点眼した。点眼後、0.5時間ごとに2時間目まで膜圧の測定および副作用の観察、評価を行った。なおウサギは上部右羽とし、被験薬投与眼の膜圧値(0時間目の膜圧を0とした場合の変化量(cmHg))および副作用の評価点の各時間ごとの平均値を求めた。副作用の評価は以下に示す評価基準に従って行った。

結果を表-2および表-3に示す。

表-2(膜圧変化値:平均±S.E. mmHg)

被験薬	時間(hr)			
	0.5	1.0	1.5	2.0
1	-1.7±0.5	-3.5±1.0	-2.5±1.4	-1.2±1.8
4	+4.0±1.1	+0.8±1.4	+0.5±1.0	-0.5±1.9
2	-2.9±0.7	-5.4±1.5	-6.4±1.1	-6.3±1.1
5	+5.3±0.8	+10.3±0.4	+6.4±1.4	+0.2±1.4
3	-2.3±1.0	-4.3±1.9	-4.8±1.1	-4.8±0.7
6	+2.2±1.1	+3.8±2.3	+1.5±1.9	-1.0±1.8

副作用(膜反応)の評価基準

部位	膜反応の程度	評点
I 角膜	(A)炎症の程度(最も強い領域を判定する) 透明、異常なし 散在性および慢性的混濁、紅斑ははっきり認める 半透鏡で容易に識別可能、紅斑はやや不明瞭 乳濁、紅斑を認認めず、瞳孔の大きさをやっと認める 白濁、紅斑は認めない	0 1 2 3 4
	(B)該当する角膜表面部の面積 0~1/4 1/4~1/2 1/2~3/4 3/4~4/4	1 2 3 4
II 瞳孔	(A)正常 正常以上のひだ、うっ血、瞳孔角膜周囲充血(いずれか1つ、または両者)、多少糞光反応あり 糞光反応なし、出血、著しい瞳孔混濁(いずれか1つ)	1 2
III 組織	(A)発赤(被験部位および葉緑体) 血管は正常 正常より明らかに血管は充血 び慢性的、深紅色で個々の血管は識別しにくい び慢性的の半透明の赤色	0 1 2 3

表-3(副作用評価点)

被験薬	時間(hr)			
	0.5	1.0	1.5	2.0
1	2.2±0.2	2.0±0.3	1.5±0.2	1.2±0.4
4	3.2±0.4	3.0±0.6	2.8±0.5	2.5±0.3
2	2.8±0.3	3.1±0.3	2.7±0.4	2.2±0.6
5	5.0±0.0	5.2±0.2	5.0±0.0	4.8±0.2
3	2.0±0.4	2.3±0.6	2.0±0.5	1.7±0.7
6	5.0±0.0	5.2±0.2	5.3±0.2	5.3±0.3

## 副作用の(眼反応)の評価基準

部 位	眼反応の程度	評点
(B)浮腫		
腫脹なし	0	
正常より幾分腫脹(軽度を含む)	1	
明らかな腫脹、眼瞼が少し外反	2	
腫脹、眼瞼が半分閉じる	3	
腫脹、眼瞼が半分以上閉じる	4	
(C)分泌物		
分泌物認められない	0	
正常より少し多い	1	
分泌物があり、眼瞼とそのすぐ近くの毛を濡らしている	2	
分泌物があり、眼瞼の毛の周囲のかなりの部分を濡らしている	3	

角膜(I)=A×B×5

虹彩(II)=A×5

結膜(III)=(A+B+C)×2

合計評点=I+II+III

## 被験薬:

- 1. 13.14-ジヒドロ-15-ケト-20
- エチル-PGP<sub>2a</sub>
- 2. 13.14-ジヒドロ-15-ケト-20
- ニチル-PGP<sub>2a</sub>メチルエステル
- 3. 13.14-ジヒドロ-15-ケト-20
- ニチル-PGP<sub>2a</sub>イソプロピルエステル
- 4. PGF<sub>2a</sub>
- 5. PGF<sub>2a</sub>メチルエステル
- 6. PGP<sub>2a</sub>イソプロピルエステル

以上の結果より、13.14-ジヒドロ-15-ケト-20-ユチル-PGP<sub>2a</sub>をはじめとする13.14-ジヒドロ-15-ケト-20-アルキルPG類は、PGF<sub>2a</sub>類をはじめとするPG類に認められる一過性の眼圧上昇を示すことなく、眼圧降低作用を発現する。この眼圧降低作用はカルボン酸体よりもエステル体の方が強く発現する傾向が認められる。また、副作用に関しては13.14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-P

GP<sub>2a</sub>類をはじめとする13.14-ジヒドロ-15-ケト-20-アルキルPG類は、PGP<sub>2a</sub>類をはじめとするPG類と比較して、著しく活性を示しており、ほとんど認められない。

## 試験例4

眼圧測定のため、日本白色種雄性ウサギ(体重2.5~3.0kg)を固定時に固定し、0.4%度数オキシプロカインで点眼麻酔したのち、日本アルコン社製眼圧平式電子眼圧計を用いて、眼圧を測定した。

被験薬は生理食塩水に懸衡し、その50μg(被験薬として25μg/eye)を片目に点眼した。また、もう一方の眼には生理食塩水を点眼した。点眼後、1時間ごとに4時間まで眼圧の測定を行った。なお、ウサギは1群6羽とし、各時間の平均値(cmHg)を求め、さらに、0時間時の眼圧に対する変化率(%)を求めた。

結果を表-4に示す。

表-4

被験薬	時間(Hr)				
	0	1	2	3	4
1	21.3±2.6 <sup>1)</sup>	29.3±3.5 (+37.0) <sup>1)</sup>	22.0±3.4 (+3.3)	19.8±1.5 (-7.0)	18.5±1.9 (-13.1)
2	17.7±1.5	14.3±1.5 (-19.2)	12.7±3.2 (-28.2)	12.3±2.9 (-30.5)	14.3±3.5 (-19.2)

1)眼圧値±S.E.(cmHg)

2)眼圧変化率(%)

## 被験薬

1: PGP<sub>2a</sub>2: 13.14-ジヒドロ-15-ケト-20-エチル-PGP<sub>2a</sub>イソプロピルエステル

## 結果の考察

本実験における13.14-ジヒドロ-15-ケト-PG類は、点眼、取扱い、静脈注射、経口投与などの投与経路によって眼圧降低作用を有する。また、13.14-ジヒドロ-15-ケト-PG類の眼圧降低作用は、PG類に見られる一過性の眼圧上昇を示さない。さらに13.14-ジヒドロ-15-ケト-PG類はPG類に見られる

虹彩、粘膜の充血、浮腫、流涙、眼瞼、瞼裂など  
の副作用が認められないが、あるいは著しく経減  
されている。

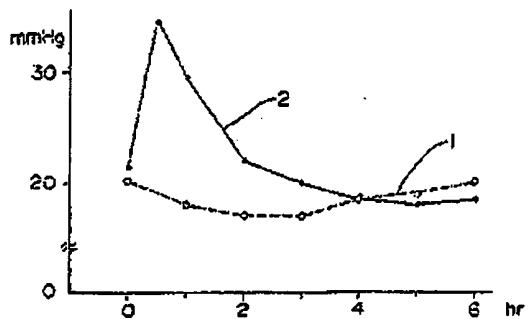
ところで、本発明における13,14-ジヒドロ  
-15-ケト- $\Delta$ 5-PG類は、眼内圧に伴う眼圧上昇  
あるいは高血圧症に伴う眼圧上昇など種々の要因  
により上昇した眼圧を降下させる薬剤あるいは上  
記眼圧上昇を予防するための薬剤として有用であ  
る。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はプロスタグラジンE<sub>1</sub>をウサギに  
投与したときの経時的眼圧変化を示すグラフであ  
る。図中、

(1): 13,14-ジヒドロ-15-ケト- $\Delta$ 5-PG  
E<sub>1</sub>、  
(2): PG E<sub>1</sub>、  
を投与したときの眼圧変化を示す。

第1図



特許出願人 株式会社 上野薬業応用研究所

代理 人 弁護士 青山 保 ほか2名

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record.**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: \_\_\_\_\_**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**